

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400383
法人名	テルウェル西日本株式会社
事業所名	グループホーム サルビア
所在地	愛媛県八幡浜市江戸岡1丁目2-9
自己評価作成日	平成28年6月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

穏やかな時間のなか、入居者様が自分の思うようにあたりまえに生活できるように一人一人を大切に支援を行っている。入居者間の喜怒哀楽を感じることができる職員であり、1日の勤務終了時には疲れたと感じても、楽しんで勤務を終了することができるようにと日々指導を行っている。また、家族との繋がりが大切に、面会に来所された時には、必ず生活状況を伝えるようにしている。また、職員も時間が許せるのなら、一緒に入居者・家族と過ごす事ができるように工夫をしている。食事においては嚥下が可能な限りは普通食で食事をして頂き、1日でも長く、食べることができるよう支援を行っている。また、排泄においても出来る限りトイレに座る事を大切にしている。日常生活が、普通の生活が遅れる事を大切に支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所勉強会で「人権」や「接遇」について学んでいる。調査訪問時、職員は笑顔で積極的に利用者に対して話しかけて関わっており、利用者のいきいきした表情等を引き出す雰囲気づくりをしている様子が見えた。花の水やりや畑の草抜き、洗濯物を干す・たたむ、食事の準備や片付け、シーツ外し、居室や共用空間のモップ掛け等、個々の力を活かして役割や出番をつくる取り組みを行っている。
今年5月に消防署の協力のもと、運営推進会議と併せて「日中の地震後の火災」を想定した避難訓練を行った。会議の地域メンバーが近隣の方に参加を呼び掛けてくれて4名の参加があり、避難した利用者の見守りの役割をお願いした。1階の居間からも外に出られるように階段を取り付けており、各居室の入り口には、津波に備えてライフジャケットが掛けてあった。食料を3日分備蓄している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 GH サルビア

(ユニット名) えくぼ

記入者(管理者)

氏名 大森 千代

評価完了日 28年 6月 24日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) ●「あたりまえ」という理念を頭に、出来る限り自然体に生活 をして頂くように、職員一同協力し支援を実施している。 (外部評価) 理念を玄関や事務所、各ユニットの共用空間等に掲示して いる。又、家族等にも理解してもらえるように、季刊誌「サル ビアだより」や重要事項説明書にも理念を明示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) ●公民館主催の敬老会に職員や入居者と参加したり、避難 訓練などには、地域の方々が参加して下さり交流を図ってい る。 (外部評価) 近隣の方のお誘いをきっかけに、海岸清掃に参加したり、 又、道路沿いの花壇作りに利用者も参加して地域の方と活 動している。地域の敬老会に参加してゲームを楽しんだり、 近くの小学校の運動会の見学に出かける等、利用者と地域 の方の交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) ●地区の奉仕作業にも職員や入居者共に参加している。 ●事業所内の催し物がある時には、地域の方への周知を行 い、参加して頂く事で、入居者・職員との関係等を実際に見 て頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>●地域住民の方も参加して頂き、報告や話し合いの場を設け、間接的な意見を求めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議は、民生委員や近隣の方、元介護相談員、家族会会長の参加があり、又、利用者も参加している。会議では、事業所の現状や活動、事例、事故、又、外部評価結果等の報告を行い、意見交換を行っている。地域の参加者からは、「1日に1回外気に触れる事は脳が刺激されるのでいいと思う」とアドバイスがあり、地域行事や花の開花状況等を教えてくれている。</p>	<p>現在、家族の会議参加が限定的になっている。家族の参加を働きかけて利用する側からの意見を引き出してほしい。又、サービス評価の目標達成計画への取組状況を報告して、参加者にモニター役になってもらってはどうか。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>●市の担当者にも運営推進会議のメンバーに加わって頂き助言を頂いている。また、市主催のGH連絡推進会議にも出席し助言を頂いている。</p> <p>●市立病院の医療連携室とは、当ホームの入居者が入院された場合には早期退院に向けての情報交換等を行っている。</p> <p>●介護保険審査会にも参加し職員との情報交換も行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月2名の介護相談員を受け入れている。事業所の担当終了後も運営推進会議に参加してくれており、アドバイス等もある。他事業所の管理者や職員の参加もあり、情報交換を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>●身体拘束は行わないという介護を職員に徹底している。しかし、入居者に危険が伴う場合は考慮するが、現時点までには拘束は行っていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月行う事業所勉強会には、年1回「身体拘束」をテーマに挙げている。玄関の戸は開放しており、洗濯物の取り入れに出入りする利用者もある。転倒の心配がある利用者には、ベッド下にセンサーマットを敷いたり、畳に布団を敷いて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●身体拘束と同じ虐待もあってはならないと考えている。そのことについては、職員に『人としての在り方』から始まり、『良識ある社会人』として、日々の会話の中や職員会の雑談の中でも話し合いをしたり、助言をしている。 ●また、言葉かけ等に疑問を持った時には、その都度注意をおこなっている。また不審なあざを発見した場合は、どこで出来たのか原因追究に努めている。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在当ホームに1名の成年後見制度利用者がおり、今後も利用者の権利擁護のため積極的に活用を考えている。 	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●定められた事はきっちり行っている。入居前に必ず訪問し、身体の状態を把握すると共にその時に契約に関する説明を行う。説明に時間のかかるものについては、入居時までに熟読して頂き、入居時に不明な点については、再度確認し説明を行っている。 	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族会や面会時または家族交流会等で情報収集を行い、入居者の対応等改善できることは職員と話し合い改善できるようにしている。また、さわやか相談員さんからの意見も汲み取るようにしている。推進会議の場で事例検討等入居者の話をした場合には助言を頂き、改善できるように心がけている。 ●ハートフル投書箱の設置を行い、意見や要望等を聞き、運営に反映させる事ができるようにしている。 <p>(外部評価)</p> <p>家族来訪時には、本人の様子を報告して意見や要望を聞いている。毎月、利用者個別に本人の写真数点と日々の状況のコメントを入れた便りを作成している。又、季刊誌「サルビアだより」では、写真を多く採り入れて行事等を報告している。年2回の家族会には、10～12家族の参加があり、毎回全職員が自己紹介を行い、職員の異動等も報告している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>●管理者は職員会やミーティング・日常会話等から職員の意見を聞き、支店担当者及び担当課長・部長に報告を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>月1回のカンファレンス会議の内容は、記録物で全員が確認する仕組みを作っている。又、日々の伝達すべき情報は申し送りノート等で共有している。職員は、法人の課長や管理者と面談する機会があり、要望を出すことができる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>●担当職員は月1回以上は松山より来所し、また何かあるごとには部長・課長が来所し相談にのって頂き対応してもらっている。</p> <p>●資格取得者には資格手当の支給があり、また、資格をとろうとするものにおいては、受験日は勤務とし、資格取得すれば受験費用が支給されている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>●職員一人一人のレベル把握を行い業務に支障のない限り研修会の参加をしたり、月1回施設内での勉強会を開催し、自己研鑽に努めている。また、27年度は職員からの希望も聞き、できるだけ研修会に参加できるように配慮をしている。</p> <p>●研修会は勤務扱いで研修費は会社負担の為助かっている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>●他2GHのGH連絡協議会にも出席させて頂いている。管理者だけが出席するのではなく、介護主任を始めとしてテーマにあわせた職員の出席も行い交流やネットワークづくりを行っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>●入居前には状況把握も兼ね必ず訪問させて頂き、顔を覚えて頂くようにしている。できる限り、入居前までには、ホームの見学にきて頂き、ホームの雰囲気を感じて頂くようにしている。信頼関係においては、今までの生活歴等を把握する事で、入居者の要望を汲み取る事から始めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ●入居前には必ず訪問し、家族の要望をくみ取ることができるようにしている。入居前の生活状態を把握し、家族が不安な事、困っている事をしっかりと理解した上で、いつでも相談して頂けるように、壁のない関係作りを心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ●初回の相談時に本人・家族のニーズを見極める事は困難ではあるが、悩みを聞くことにより今利用できるサービス・支援と一緒に考えると共に、入居するしないに関わらず、いつでも相談できる関係作りを考え対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ●家族の一員との意識を持って生活するようにしている。自分の家族ならとの思いがある事で、言葉や態度が柔軟になる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ●上記と同様に家族の立場を尊敬しつつも、家族以上の馴染みの関係が構築できるように努めている。そのことにより家族が安心してホームでの生活に頼ることができればと考えており、そこから、いつでも相談できる関係作りを目指している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ●知人・近所の方が面会に来て下さった時には、自室でゆっくりと面談して頂いたり、許せるなら職員も交えてお茶の時間を持ち、楽しい時間を過ごすことができるように努めている。知人・友人等の面会時には、関係や場所等を支障のない範囲で確認をして、後日日常的に、本人との会話の中に入れる事で、持続性を保つようしている。帰る際には必ず再来をお願いしている。また、写真撮影を行い、毎月のお便りに配信している。 (外部評価) 「お墓参りに行きたい」や「家に帰りたい」という本人の気持ちを家族に伝えて、協力してもらおうケースがある。「リンゴの唄」を一緒に歌ったり、お手玉や花札、折り鶴等、利用者の世代に懐かしいようなレクリエーションを採り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ●入居者同士の性格やその時の状態を考慮し、必要により入居者同士の会話の仲介を行ったり、お茶の時間には職員も一緒にテーブルについて話を楽しんでいる。難聴な方に対しては、特に職員が架け橋になり、孤独にならないよう注意し、席替えも行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ●退去されたご家族に出会った時には、話をしたり一緒に生活された入居者を気にして下さったりと、馴染みの関係が続くことができるようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ●思いや希望は、日常会話の中から読み取り、出来る限り要望に添える対応をしている。一人の時間を大切にしたい入居者には自室での時間を楽しんで頂いている。また、職員の時間の許せる限り、一緒に散歩・買い物・ドライブと出掛けている。また状況的に困難な場合には、否定せず受容を行い、どうしても分からない場合には、カンファレンスを利用し職員で検討する事もある。 (外部評価) 利用者の言葉から意向を探り、計画に反映しているケースがある。難聴の利用者から手話を教えてもらい、手話でコミュニケーションを取っている職員がいる。	さらに、利用者から得た希望や意向等の情報を蓄積して共有できるような仕組みを作り、利用者が主体的に暮らせるような支援につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ●アセスメントシートその他、知りえない事(必要な場合)等は、家族が面会に来られた時等、会話の中で情報を集め、アセスメントシートに追加で記入し、職員間で情報の共有に努めている。 ●家族が遠方に居られる方からの情報収集が難しい為、帰省された時などを利用し、情報の収集を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ●入居者本人からの会話の中や家族からの情報を得ることができるよう常に心がけているも、重度の方や家族が遠方の方は難しい所もある。毎日の生活から表情や口調、発語の量等で身体の状況を把握し、対応を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>●職員全体で取り組んでいるが、特に担当者が中心になりケースカンファレンスを行い、話し合いをするようにしている。家族の面会時にも思いや気づき等を聞き、現状の即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、「本人の力を活かす」ことを大切に計画作成に努力をしている。援助目標を、日々の個別記録に記し、毎日実践状況を○△×でチェックして職員で共有している。月1回のカンファレンス時に個々のケアについて話し合い、モニタリングを行い、6ヶ月に1回評価・見直しを行っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>●ケース記録用紙は1日毎に記録する形式をとっている。上部に援助目標をプリントし、達成状況を記しており、困難な事例が発生した場合には別紙を利用し、細かく記入している。また、月間記録には評価に生かす事ができるようにまとめを行っている。</p> <p>●職員が休みの日は日誌や変化のあった入居者は記録用紙で確認し、統一事項は申し送りノートで確認を行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>●入居者の家族が宿泊されたり、一緒に食事をしたり、また介助のいる入居者は入浴の様子を見て頂いたり、できるだけ家族の要望に応えている。</p> <p>●入居者の状況に応じて、通院等の支援を行いホームでできる対応は援助することができるようにしている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>●月1回さわやか相談員が訪問し、ホームの素顔を視て頂いている。また、運営推進会議のメンバーである民生委員の方々や地域住民の方々にも家族交流会に参加して頂けるように声掛けを行っている。</p> <p>●福祉サービスの利用→高齢者外出支援事業</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本人・家族が希望する主治医となっている。2か所の医療機関から月2～3回往診を受けている。それ以外の定期的受診は家族にお願いしているが、家族が遠方の方や、家族の都合で受診出来ない場合には、職員が付き添い受診を行っている。 ●本人が必要とする医療においては主治医と相談し紹介をして頂いている <p>(外部評価)</p> <p>落ち着かない状態が続くような時には、本人の状態をかかりつけ医に報告しながら、総合的な支援に取り組み、安定剤の減薬や短期間の内服に留める支援を行っている。歯科は、訪問診療を利用している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●看護職員を配置しているので、24時間連絡体制がとれ医療面の相談・助言の対応ができるようになってきている。 ●市立HP医療連携室とは気軽に相談できる関係を築いている。 ●入居者主治医の看護師とは情報交換や相談ができるように努めている。 	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●入院時には管理者や担当職員を主にお見舞いに行き、本人の観察を行うと共に、当ホームの受け入れ体制等を医師や医療スタッフと話し、早期退院に向けての調整を行っている。 	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当ホームの方針を家族会を通じて説明を行い、終末期ケアの意思確認を行っている。協力医をはじめ往診対応して頂いている医療機関とも、当ホームの実情を理解して頂いているため協力的に対応して下さっている。 <p>(外部評価)</p> <p>職員は、事業所勉強会時に「看取り支援」について学んでいる。昨年度は、2名の方の看取り支援を行った。かかりつけ医の意見や事業所が大切にしている「家族の思いや気持ち」を職員で話し合い、申し送り時や申し送りノートで方針を確認、共有して取り組んだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マニュアルを作成しているが、なかなか定期的には実施できていないのが現状である。 ●年2回の防災訓練のうち1回は応急手当等の対応を消防職員より指導して頂いている。 ●経験年数等で差は見られるも、勉強会や研修にてスキルアップを行っている。実体験をする事が一番身につけている。 	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●火災時は消防署から2分の立地条件のため、「死亡者を出さない」を教訓に毎年避難訓練を実施し、職員に徹底している。 ●27年度は夕食の準備中の火災を想定し、避難訓練を行った。 ●災害用の備蓄品を備えている。 ●27年度行った避難訓練に地区住民4名の参加を得ることができた。 	
			<p>(外部評価)</p> <p>今年5月に消防署の協力のもと、運営推進会議と併せて「日中の地震後の火災」を想定した避難訓練を行った。会議の地域メンバーが近隣の方に参加を呼び掛けてくれて4名の参加があり、避難した利用者の見守りの役割をお願いした。1階の居間からも外に出られるように階段を取り付けており、各居室の入り口には、津波に備えてライフジャケットが掛けてあった。食料を3日分備蓄している。</p>	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●常に入居者の立場に立ち、親しみの持った口調で声掛けを行い、丁寧な対応ができるように心がけている。特に、排泄や食事介助等、周囲からの視線や、口出しのないように対応を行っている。 ●本社の方からも、毎年個人情報保護においては資料が届き職員に職員会で通達している。また、日々、漏えいがないように注意するよう心がけている。 	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所勉強会で「人権」や「接遇」について学んでいる。調査訪問時、職員は笑顔で積極的に利用者に話しかけて関わっており、利用者のいきいきした表情等を引き出す雰囲気づくりをしている様子がうかがえた。花の水やりや畑の草抜き、洗濯物を干す・たたむ、食事の準備や片付け、シーツ外し、居室や共用空間のモップ掛け等、個々の力を活かして役割や出番をつくる取り組みを行っている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1:1の会話ができるように心がけている。入居者の思いや希望がくみ取ることができ、満足して頂ける援助が行えるように努めている。また、満足して頂けなくても、せめて、納得して頂けるように日頃から信頼関係を築き、誠心誠意対応している。 	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ●入居者のペースを大切に援助を行っている。食事・入浴・入眠時間等利用者のその日の気分に合わせている。何日も入浴されなくても、無理強いせず、本人から入浴する気持ちになるように援助を行う。食事自己摂取できる方は時間がかかっても、食べて頂く。できる限り、出来る事は本人にして頂き、職員は見守りを行う。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ●自分で選ぶことができる人は少ない。季節はずれの服装をしている場合は、職員と一緒に選ぶようにしている。 ●出張美容は月1回来ており、利用するもしないも、本人の意思決定をして頂き、髪形も出来るだけ本人の希望に沿うようにお願いをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ●食べて頂くことを優先し、その人のペースで時間がかかっても食べて頂く。 ●生で食べる物以外は入居者にできる下ごしらえはして頂く。 ●職員も同じテーブルで食べながら、会話を楽しんだり、出来たおかずの評価をしたりして、楽しんでいる。 ●お誕生会には、誕生者の食べたい物で、お祝いをするようにしている。また、お誕生日ケーキやお誕生日饅頭とプレゼントでささやかであるがお祝いをしている。 (外部評価) 週5日は、業者が立てた献立で食材が届き、他の2日と朝食は職員が考えた献立で食材を注文して、各ユニットで調理している。利用者は、野菜の下ごしらえや米とぎ、盛り付け、下膳、食器洗い等を行えるよう支援している。調査訪問時、職員も同じものを食べながら、利用者が時間をかけて自分で食べるのを見守っている様子が見られた。毎食後、口腔ケアの声かけ、支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ●基本的に食べて頂くことを優先している。食事量の少ない人には、食べ残しがあると気の毒そうにされるので、食べれる量で対応を行っている。むせ込みのある方にはとろみをつけたり、刻みにしたりと、食べやすいようにしている。 ●水分摂取においても、定時の他に入居者の希望で飲んで頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ●毎食後口腔ケアの声かけを行っている。自分で出来る人は拒否がない限りは実施している。義歯の無い方はうがいをもいいる。 ●歯科治療の必要な人は協力医の往診で対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●尿意・便意の曖昧な方には、排泄パターンを把握し、誘導する事で排泄を促している。 ●オムツ使用の人でも座位が保てる人は、可能な限り便座に座って頂いている。排尿や排便の量やパターンを全職員が観察を行い、カンファレンスにて可否の検討をし、支援方法を変更している。 <p>(外部評価)</p> <p>カンファレンス時に、個々の紙パンツやパッド使用の必要性や適切性について話し合い、一人ひとりのその時々状態に合った支援に取り組んでいる。日中の排泄支援は、トイレ使用を基本とし、特に排便はトイレで用を足せるよう支援している。トイレには、トイレトペーパーと落とし紙を置いているが、落とし紙を使用する利用者の方が多いようだ。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●野菜嫌いな人には、便秘予防という事で声掛けを行い、少しでも食べて頂くようにしている。 ●水分補給・体操等を心がけてはいるが、便秘が続く入居者においては間隔をみては、緩下剤を利用している。 ●朝食後にトイレの声掛けを行うようにし、排便のパターンが出来るようにしている。 	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自立者は毎日入浴して頂くことを基本としているが、介助が必要な人が増えてきたため介助で入浴される入居者は3日に1回の入浴ができるように対応している。また、便失禁等で汚れた場合はシャワーや入浴を行っている。 ●散髪や汗をかいた後には、出来るだけ入浴して頂いている。 <p>(外部評価)</p> <p>個々に週2～3回の入浴を基本としているが、希望によりほぼ毎日入浴支援するケースもある。重度の方も二人介助で浴槽に入り、温まれるよう支援している。入居間もない頃は入浴を拒むような方もあるが、職員との信頼関係ができると安心して入浴するようだ。自分で着替えを用意する方もある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●19時にホットミルクの水分補給後睡眠に入るが、それぞれのペースでホールでTVを見られてから各自自立者は自室に帰られる。楽しいTVがあれば遅くまでTVを見られ、自分のペースで自室に帰られる。 ●自立者は日中は自分のペースで自室とホールを上手に使い分けておられるが、できるだけ、ホールで過ごして頂けるように声かけを行っている。 ●体調に合わせて、自室で休んで頂いたり、希望されると介助者は自室に誘導を行っている。 	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ●ケースファイルに薬の効能書きを閉じ、変更があった時には申し送りを行い、申し送りノートにも記録し職員全員が把握できるようにしている。 ●誤薬防止のために必ず日付と一つの薬かを確認し手渡しを行い飲み込みまで確認している。自分で服薬できない人には、職員が口腔内に入れ飲み込みを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ●若い頃にされていた遊びや習い事を把握して、生活の中で自然体で話題が出て来るようにしており、室内で出来るお手玉やカラオケ等は、定期的に声掛けし、希望があれば職員と一緒にされたり、歌われている。(気分転換には、外気浴や散歩にも出かけている。 ●聴覚障害者には、テレビの会話が分かるよう字幕を表記したり、簡単な手話や筆談で会話出来る様に工夫している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ●家族が面会に来られた時には一緒に外出され、食事やお墓参りに行かれる。 ●年2回はマイクロバスで遠出を行っている。 ●できる限り散歩に出掛け、気分転換を行っている。買い物も希望があれば一緒に近くのスーパー・薬局に出かけている。 (外部評価) 気候の良い時期は、近くの川の鯉を見に行く等、事業所近辺を散歩している。事業所の畑では、夏野菜や玉葱、サツマイモ等の植え付けや収穫を利用者と一緒に行っている。花見は近くの公園で行っている。年2回、マイクロバスをレンタルして遠出を楽しんでいる。日用品の買い物等、希望があれば近くのスーパー等に一緒に出かけている。	利用者の希望や家族の要望も聞きながら、庭に出たりちょっと散歩して気分転換を図るような支援に工夫してほしい。又、重度の利用者も体調をみながら、外気にふれるような機会作りに取り組んでほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ●現実的に本人が管理される事は不可能な為、家族の了解の上、お預かりしている。 ●お金を持つ事で安心される入居者には、家族と協議の上、本人が持たれるが使用される事はない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ●家族から電話があれば、出来るだけ取次、話をして頂くようにしている。会話が出来ない状況であれば、後で電話があった旨を本人に報告をし、安心して頂くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●手作りの暖簾や壁掛け、またホールのボードには毎月の写真を貼って楽しんで頂いている。 ●夏にはきゅうりを植え収穫等を入居者と楽しんでいる。 ●裏の畑では季節にあった野菜を植え、眼と舌で楽しんで頂いている。 ●トイレの棚に置いてあるパットが視界に入らないよう、暖簾をしたり、個々のボックスの中に入れて頂いている。 ●テーブルには、季節の花を飾り、目や匂いで季節を感じて頂いている <p>(外部評価)</p> <p>玄関前にはプランターにペチュニア等が咲いていた。調査訪問時、利用者は居間で洗濯物をたたんだり、トイレの落とし紙を使いやすいように二つ折りにする作業を行っていた。毎日、居間でラジオ体操を行っている。「便所」と書いた紙を立体的に貼って、少し離れたところからも場所が分かるよう工夫をしていた。廊下や居間に空気清浄機を置いている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホールにはソファを置き、入居者がゆつくと過ごせる場所を確保している。 ●ホールの席では、相性の良い方や、話の内容が共有出来る方等、その人に合った居場所作りで対応を行っている。 	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●できる限り使い慣れた物をお願いしているが、それが裏目に出る場合もある。(入居したこと自体理解されていない場合) ●仏壇やTV・椅子等がある入居者もおいで。 <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口に、職員手作りの色とりどりの暖簾を掛けている。各居室にベッドと整理ダンスと、加湿器付きの空気清浄機を設置して感染症予防を行っている。家族が、やしゃご等家族の写真を壁面に飾ったり、仏壇を置いている方は、水のお供え等を職員が支援している。中には、シンプルな居室もみられるが、さらに、職員でその人らしさや生活感等の工夫を話し合ってみてはどうだろうか。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●十分なアセスメントを行い入居者を把握したうえで、どの入居者にも安全な環境を提供できるように心がけているが、A氏には安全でもB氏には危険な環境になり得ることを理解し援助を行っている。そのため、安全には十分注意を払うが、全ての入居者に安全な環境づくりは困難を極める。 	